

■ 95人が安全なブロック、タックル学ぶ

新入生を対象に首と頭のけがを防ぐブロックとタックルを学ぶ「ヘッズアップクリニック」と、元日本代表QBが指導するQBクリニックが7月20日、札幌学院大で開かれた。8大学の1、2年生95人が講義と実技で学んだ。



北海道学生アメリカフットボール連盟が、日本アメリカンフットボール協会の協力で開いた。「ヘッズアップクリニック」は今年で4回目。日本協会ヘッズアップフットボール指導員の飾磨宗和氏（立命館大、Xリーグ・パナソニックインパルスOB）が講師を務めた。午前の講義では、2012年から米国で始まったヘッズアップフットボールの取り組みを紹介。①首のけがを防ぐためにコンタクトの時に頭を下げない②外傷性脳障害を防ぐために頭部のコンタクトの頻度を下げる—などのポイントを挙げ、ヘッズアップの導入で米国リーグでけがが76%減った例も紹介した。

午後の実技では、現役時代にDLを務めた飾磨講師がヘッズアップ・ブロックとショルダー・タックリングを実演。参加者たちも早速ダミーを使って体の使い方や足の運びなどを学んだ。飾磨講師が「ブロックは手のひらでヒットす

る」「親指を上に向けて、下から上に相手を持ち上げるように力を使う」と助言すると、参加者たちは熱心に聞き入っていた。



QBクリニックは、早稲田大のエースQBとして甲子園ボウルに出場し、NFLヨーロッパにも挑戦経験を持つ波木健太郎氏が講師を務め、6大学の7人が参加した。波木氏は「QBはチームにとって大事なポジション。まずけがをしないこと」と心構えを伝えたうえで、パスを投げる時のボールの握り方から指導した。「人差し指をボールの先端近くに当てて、押し出す力を与える」「ひじは肩より上に」などの言葉に、参加者たちは早速パスフォームを入念にチェックしていた。

(広報委員 塚田博)